

一 4 土層の堆積状況

本項では1区、2区の土層の堆積状況と若干の遺物の出土状況について説明する。

本項以下の遺物の説明は区毎に行わずに一括しているが、土層の堆積は著しく異なった状況を見せているため1区、2区と分けて説明する。

① 1区の土層（第17、18、20図、図版2）

1区の堆積は、基盤に古第三紀砂岩の堆積層があり、その上位に安山岩を主体に含む火山性の碎屑層が存在し、さらに上位に火山灰層が堆積する。第17、18図は1区の調査区の土層断面図である。基本的には既述の安山岩を主体に含む火山性の碎屑層を5層とし、3層との漸移的層としての4層、黄褐色を色調の主体とする旧石器時代の遺物を包含する3層、遺跡全体を被覆する茶褐色を色調の主体とする2層、表土の層順が基本であり、調査区毎の異同については図中に説明しているので参照願いたい。

4層は第17・18図中5層とした火山碎屑層の上位に載る層で、赤味が強く粘性がある。

3層との間層であり、1区のはほぼ全域に展開している。下位の5層との漸移的な層で、下位に行くに従い赤味を増す傾向にあり、3層との関係で黄色味を呈するところもある。また西方に行くに従い砂岩の河原石を層中に含む傾向が見られる。

第3表のように7調査区で遺物を含む層を確認し、75点ほどの遺物を含むが、その多くは削片と原石で占められている。

第3表中、B-11調査区を除いた調査区は、1区稜線より西方に位置し、さらに標高的に高位置に存在する。これは基盤である古第三紀層が西側に高く、東に低く標高を減する結果、C-E・6列あたりから東方にわずかな谷地形を示すことと関連し、またこのことにより3層の不在が顕著であり2層との接触との結果、4層中に遺物が存在する結果となり、遺物として取り上げたものである。またB-11調査区で確認された土器が1点ある。土層の状況を仔細に観察した結果、土器周辺部が黄色味を帯びた粘土が存在し、これは樹根空洞部に水分によって粘土が集積・充填した結果であり、土器が下層に落ち込んだものと思われ、共存関係にある流れ込みとして理解している。ちなみに土器は胎土・焼成等からして縄文晩期の所産である。またG-2調査区の土器も既述の関係により検出されたものと推察される。

さて、第20図はB-11調査区の黒曜石、石英、砂岩の自然遺物、つまり原石の遺物分布図である。98個の原石は平面的には調査区全域に分布している。垂直分布では5層から3層まで分布し、砂岩原石は5層に、その他は4層から上位に堆積する傾向が窺える。これは5層が火山起源の火砕流堆積物で下層の砂岩岩礫を破砕して堆積したことを示唆し、また上層は人為であろうか、火山灰中に堆積したことを物語っている。この5層から上位にかけての土層については第V章に詳述している。

3層は、2～4列にも見られるものの、主体は6列より東方に、また南北はA～J列に堆積・展開する。特にC～G・9列以東において安定している。また、この層は1区と2区を分ける赤道北方の2区E列まで存在し、より北方には存在しない。このように3層の分布範囲は一定程度限定され、以外の調査区においてはその存在が認められず2層と4層、或いは2層と5層と堆積する層序関係が認められる。また、1区と2区の3層としたものは色調において異なるものの、層相が似通っており、同時異相の関係にある層順と考えられる。

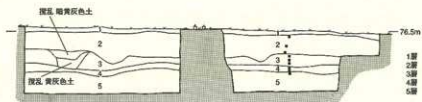
この層は黄褐色を色調の基調とする層で、調査区によって若干の色調の異同を認める。層中には ϕ 1～2mmの安山岩風化礫や小さな砂岩原石を含む。粒子は細かく締まっている。

第4表には3層中において遺物を確認した調査区を概念的に示しているが、白抜き調査区でも東方においては3層が確認されるのであり、3層が部分的に点在することを示したのではなく、面的に分布するものであることを指摘しておきたい。

遺物を包含する3層は全体で45調査区で確認した。遺物は石器、土器ともに検出されている。石器は総数で2,046点が確認され、その中で削片と原石が1,964点、全体の96%を占めている。石核などの石器は82点で旧石器時代の文化層である。D-9調査区のほか、B-11、C-9、E-9調査区において細石刃が散見されるが、おおくはナイフ形石器、台形石器などを包含する時代の所産である。3層は本来はかなりの広範囲に展開していたと思われるが、後代の擾乱によりかなりの程度消失していると推察され、よって3層の出土遺物が本来の石器組成を示しているとは考えられず、2層中にも混在していると考えなければならない。なお、土器の混入は見られるものの、縄文時代以降の石製品は含まれず、安定した様相を見せている。B-7調査区検出の土器は5mmほどの小片で胎土・焼成からみて縄文晩期の所産であり、流れ込んだものと推察される。またD-2調査区出土土器は前述の理由、即ち2層との接触による共伴と思われる。

なおD-11調査区で1個、F・G-9～11調査区で9基ほどの3層掘り込みのビット群が確認された。径は20cm前後、深さ10cm内外をはかり、ビット間の距離は2m程度である。覆土は3層黄褐色土に黒色土を混濁したような土である。遺物の検出はなされなかったが生活跡関連の遺構と推察される。

2層は茶褐色を色調の主体とする層で、粘性は弱く粒子は細かい。分布範囲は1区全体を被覆する。この2層からは石器7,230点、土器835点が出土している。石器の傾向は旧石器時代の石器が見受けられるものの、3層からの浮きあがり縄文時代の生産活動を含む人為による擾乱の結果、旧石器時代の遺物が共伴したものと推察され、土器から推察して縄文時代を主体とする文化層である。E・F-9調査区あたりでビット群が確認できたが、一定の纏まりを指摘し得ない。覆土は暗紫色土で3層ビット群の覆土とは明かに異なっている。



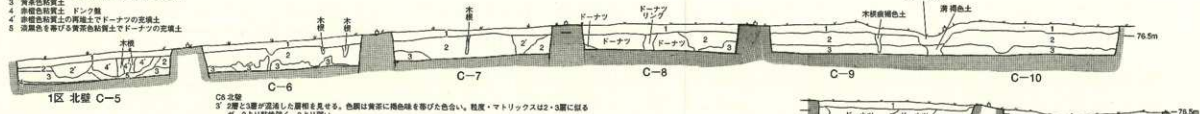
1区 北壁 B-11

1区 東壁 B-11

CS 北壁

- 1 黄土
- 2 茶褐色粘質土
- 3 黄褐色粘質土 土層と3層が混在した層相を見せる
- 4 黄褐色粘質土
- 5 黄褐色粘質土

■一火山灰分転用試験採取ポイント



1区 北壁 C-5

1区 北壁 C-6

1区 北壁 C-7

1区 北壁 C-8

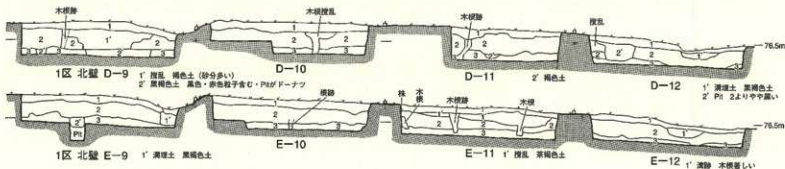
1区 北壁 C-9

1区 北壁 C-10

1区 北壁 C-11

1区 北壁 C-12

CS 北壁
 ① 土層と3層が混在した層相を見せる。色調は黄褐色に褐色味を帯びた色合い。粒度・マトリックスは②-③層に似るが、2より粒径細く、3より粗い。



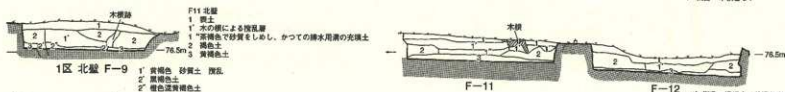
1区 北壁 D-9

1区 北壁 D-10

1区 北壁 D-11

1区 北壁 D-12

1' 黄褐色 褐色土 (砂分多し)
 2' 黄褐色土 黒色・赤色砂子含む・PEPドーナツ



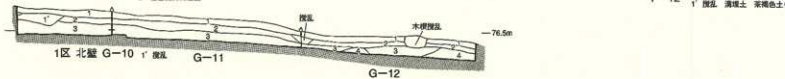
1区 北壁 E-9

1区 北壁 E-10

1区 北壁 E-11

1区 北壁 E-12

1' 黄褐色 黄褐色土
 2' 黄褐色土 黒色・赤色砂子含む・PEPドーナツ

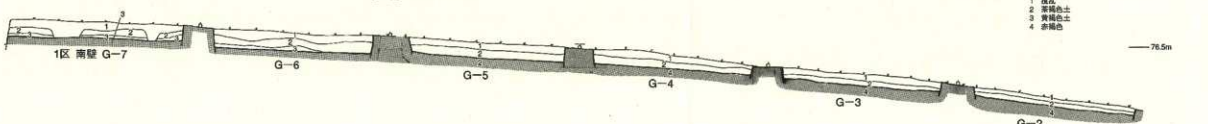


1区 北壁 F-9

1区 北壁 F-11

1区 北壁 F-12

1' 黄褐色 砂質土 腐植
 2' 黄褐色土
 3' 黄褐色土



1区 南壁 G-7

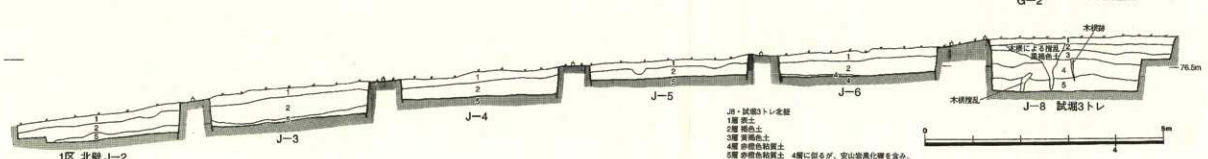
1区 南壁 G-6

1区 南壁 G-5

1区 南壁 G-4

1区 南壁 G-3

1区 南壁 G-2



1区 北壁 J-2

1区 北壁 J-3

1区 北壁 J-4

1区 北壁 J-5

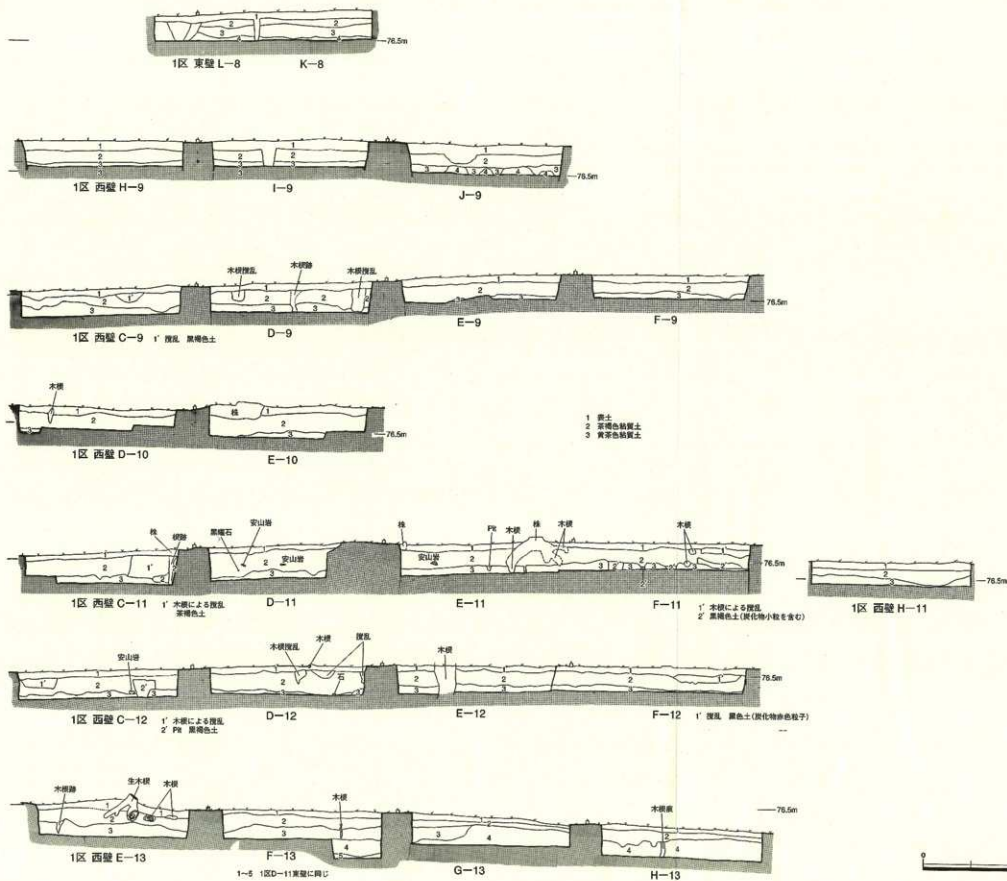
1区 北壁 J-6

1区 北壁 J-8 試験3トレ

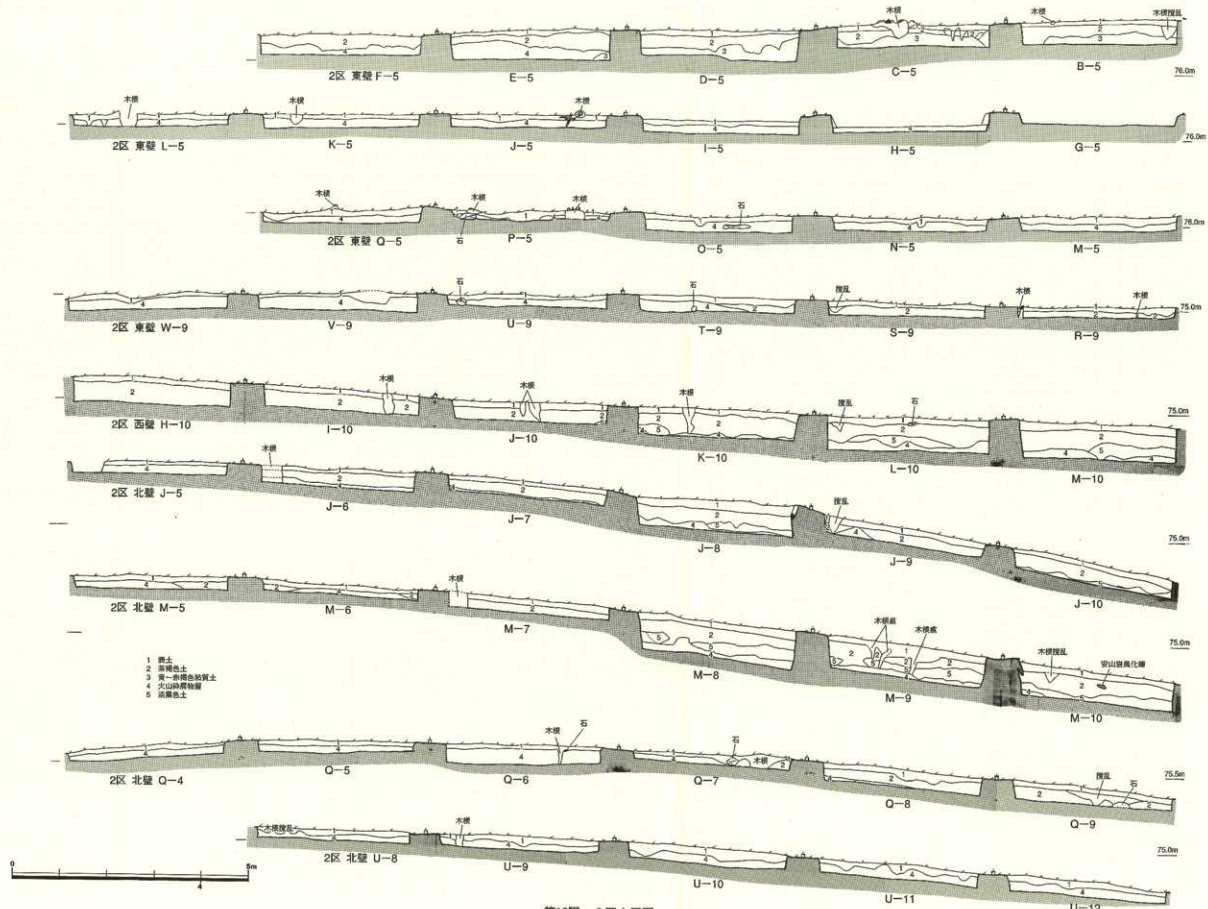
注・試験3トレ北壁
 1層 黄土
 2層 褐色土
 3層 黄褐色土
 4層 黄褐色粘質土
 5層 黄褐色粘質土 4層に似るが、火山灰質化層を含む。
 6層 黄褐色粘質土 4層に似るが、火山灰質化層を含む。
 7層 黄褐色粘質土 4層に似るが、火山灰質化層を含む。



第17図 1区土層図 (北壁)



第18图 1区土層図(西壁)



第19图 2区土层图

② 2区の土層（第19図）

2区では前述のとおりE列周辺まで1区3層との土層の関連が窺え、事実縄文時代の遺物を含む傾向は見られない。

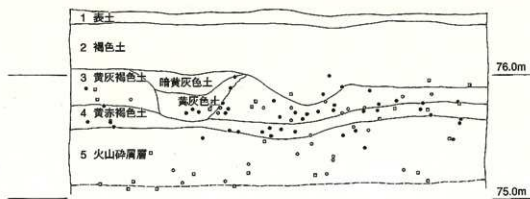
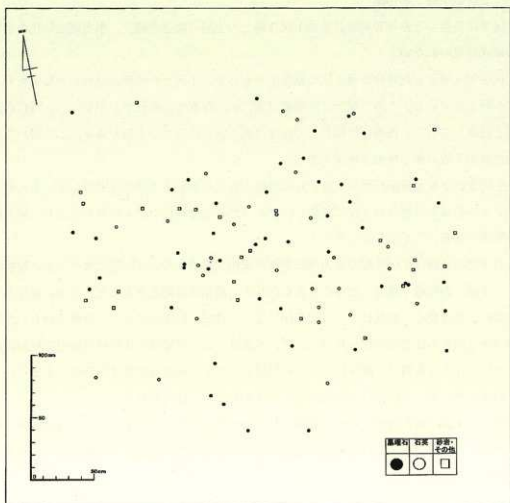
2区中で5層とした層は4層上位に位置するもので、1区との関連が認められないため、あえて5層としている。この5層は2区稜線以東にのみ存在する層位で、かなり古い時代の再堆積層と認識している。色調は黒褐色土で粘性は弱く安定性のない土層である。この層からの遺物出土は第7表の如く極めて僅少である。

先年調査の下峰原遺跡C地点（註1）で検出された黒褐色土と層相は近似していると感じさせる。この層は茶褐色土の下位に位置し、ナイフ形石器や石鏃などを包含しており、縄文期以後の所産であることを示している。

この下位の4層は1区5層の火山性碎屑物の風化土層である。この層にはわずかに遺物を包含し、2層との接触で遺存したものと推察される。層相は黄褐色を主とし、5層の風化土であるものの粒度は荒く、粘性はない。調査区によっては安山岩が固化せず、岩塊そのものが現れ、移植ゴテで割れるほどの状況を見せている。本来はこれら岩塊は火山性碎屑層の深度がふかいところに存在するもので、調査区全体の碎屑層がかなりの程度高位置まで浮きあがっていることを物語っている。この層には砂岩の粒子の混入も極度に認められる。

2層は、1区2層と同様で褐色を基調とした層で粘性は弱い。層中には火山性碎屑層の風化礫を含む。この層は2区全体を被覆するものでなく、自然の営力によって存在しない調査区も認められる。

註1 諫早市埋蔵文化財調査協議会『下峰原遺跡』1998



第20图 1区B-11调查区原石分布图(S-1/30)

一 5 遺物の出土状況と出土遺物

① 1区3層遺物の出土状況(第21~35図、第3~7表)

まず出土遺物の全点数については第3~7表に掲載し、遺物の出土状況については第21~35図に1・2区3層分に主眼を置いて掲載している。これは3層がプライマリな状態の堆積を見せることと、後述するように2層が縄文時代を中心とする時期の所産であること、及び3層への攪乱の度合いが認知され、安定していない様相が2層に認められるとの理由による。

3層からは第4表に掲げることく取り上げ件数は2,046点であった。この中の3/4は原石が占めており、削片、剥片、使用痕ある剥片を除くとわずか36点が定型的石器として存在するにすぎない。またこのなかで11点は細石刃が占めており、遺物の出土が重層的になっていたことを示唆している。3層の主たる石器組成は、ナイフ形石器、台形石器、角錐状石器、石錐、搔器、削片、使用痕のある剥片などからなる石器群であったことを窺わせ、分布の重心はC~F-9~12調査区付近にあったことを示している。

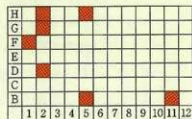
3層と2層の遺物出土状況については、第8図にF~H-9~12調査区分を掲載した。これは前述したように3層掘りこみのビット群の層的な安定性と独立性を検証するためである。遺物は、3層分は全器種57点を図示し、2層分は全機種を掲載すると824点と多いため、削片669点を図化した。これは削片が雨水などの物理的営力により、ある程度は移動することが想定されるものの、石器製作段階で削片化したものに対し、人為による二次的な移動が他の器種より少ないであろうとの想定による。なお図中の大きなドットは3層中の遺物を、小さなドットは2層中の削片を表している。作図化したものを観察すると、2層と3層の遺物の平面分布では、3層の遺物がビット群内には分布せず、周辺に分布している。これに対し2層の削片はビット群内にも分布し、その在り方に違いが見られる。また垂直分布では、F~H列ともに2層間の分布は明確に分かれ、地形の傾斜角に順じて分布する傾向が窺える。さらに3層遺物の垂直分布上面が、ビット群の掘り込み面とほぼ同レベルであることも、ビット群が3層遺物時の所産であることを物語っている。

第32図には3層の無斑品質安山岩の分布と2層のそれとを掲載している。3層と2層の接面付近からの出土であり、分布の中心がD-7調査区、G・H-9・10調査区の2地点にあることを示している。無斑品質安山岩は総数で47点(中1点は原材料として搬入)出土し、内訳は3層で削片、石核、剥片が各々1点、2層で同12、6、25点が出土している。しかし46点間での接合関係は見なかった。多くは製品として遺跡外に持ち出されたのか、あるいは小石核、剥片として搬入されたかであろう。この無斑品質安山岩製の石器は、本来3層中において3層文化層の石器組成を構成するものであろうが、後世の営力によって3層から遊離したのと考えられる。これら無斑品質安山岩は風化が極めて激しく、経年を感じさせる一群である。

第33図は1区E-10調査区2層の遺物分布図である。出土点数は石器293点、土器9点である。遺物は調査区全域に分布し、また遺物の垂直分布も地形に順じように出土している。北東隅の50cm四方に集中部が見られる。83点が集中し、器種は77点が削片、剥片・使用痕のある

1区	層	C	F	原石	計	土器
B	5	4層黄褐色		1	1	
B	11	4層	1	37	38	1
D	2	4層	13	2	15	
F	1	4層赤褐色	2		2	
F	2	4層赤褐色	2	1	3	
G	2	4層赤褐色	1		1	2
H	2	4層赤褐色	9		9	
H	5	4層赤褐色クサリ雜	6		6	
			34	2	39	3

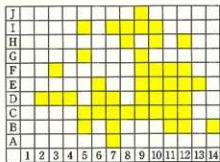
第3表 1区4層出土遺物組成一覽



1区4層遺物出土調査区概念図

品名	層	C	F	原石	計	土器														
A7	3層黄褐色	10	2		1	13 12 2														
B5	3層黄褐色	11			2	13 11 0														
B7	3層	6	6	1	3	1 1 1														
B7	3層黄褐色	6	2		8	16 8 3														
B11	3層				1	1 0 0														
B11	3層黄褐色	20	7	2	1	1 60 3 1														
B12	3層	9	2	1	4	1 15 12 3														
B14	3層				3	3 0 0														
C5	3層	1			3	4 1 0														
C6	3層	1			8	9 1 0														
C7	3層				13	13 0 0														
C8	3層	2			2	1 5 3 1														
C9	3層	27	3		36	3 3 2														
C10	3層	19	1		30	30 20 1														
C11	3層	18			36	1 45 19 0														
C12	3層	19			32	51 19 0														
D2	3層	34	2		1	37 30 3														
D3	3層黄褐色	11		1	3	1 12 1														
D3	3層黄褐色		1			1 1 1														
D4	3層	1	1		1	1 1 1														
D6	3層黄褐色	7	1		15	23 8 1														
D7	3層	6	2		2	1 11 9 3														
D9	3層	14	3		7	6 30 33 3														
D10	3層	18			123	1 142 18 1														
D11	3層	54	1		1	1 207 57 3														
D12	3層	5	1		30	16 6 1														
E6	3層	2			20	22 2 0														
E6	3層黄褐色	1			35	16 1 0														
E9	3層	2	1		1	1 1 1														
F9	3層	20			280	221 21 0														
F11	3層	21	1	1	130	1 1 1														
F12	3層	19			182	1 262 30 1														
F13	3層	2			9	11 2 0														
F3	3層黄褐色	1				1 1 0														
F9	3層	11	1	2	9	23 14 3														
F10	3層				1	1 0 0														
F11	3層	28			106	1 133 26 1														
F12	3層	6	1		86	92 7 1														
G5	3層黄褐色	6	1			7 7 1														
G9	3層	6			9	15 8 0														
H8	3層	7			132	129 7 0														
H10	3層	2			1	3 2 0														
H12	3層	2			4	6 2 0														
I5	3層	5			5	10 3 0														
I5	3層黄褐色	18			30	1 49 19 1														
I7	3層	10	1		5	16 11 1														
I8	3層	4			26	32 4 0														
I9	3層	1			15	16 1 0														
I10	3層	1			1	2 1 0														
I9	3層	8			6	14 8 0														
J9		49	1	41	6	1	2	1	1460	11	3	4	3	6	2	1	2046	578	82	4

第4表 1区3層出土遺物組成一覽



1区3層遺物出土調査区概念図



■ 台形



■ 台形



■ ナイフ



■ ナイフ



■ 彫器



■ 彫器



■ 鋸歯縁



■ 鋸歯縁

(白抜き数字は出土点数を示す)

第10表 1区石器器種別分布概念図



■ 石鏃



■ 石鏃



■ 播磨



■ 播磨



■ 細石刃



■ 細石柄+細石刃

■ 細石刃

■ 細石刃+スポール



■ 削器



■ 削器

(白抜きの数字は出土点数を示す)

第11表 1区石器器種別分布概念図



■ 石核



■ 石核



■ 剥片及び
使用痕の
ある剥片



■ 剥片及び
使用痕の
ある剥片



■ 角錐状石器



■ 角錐状石器



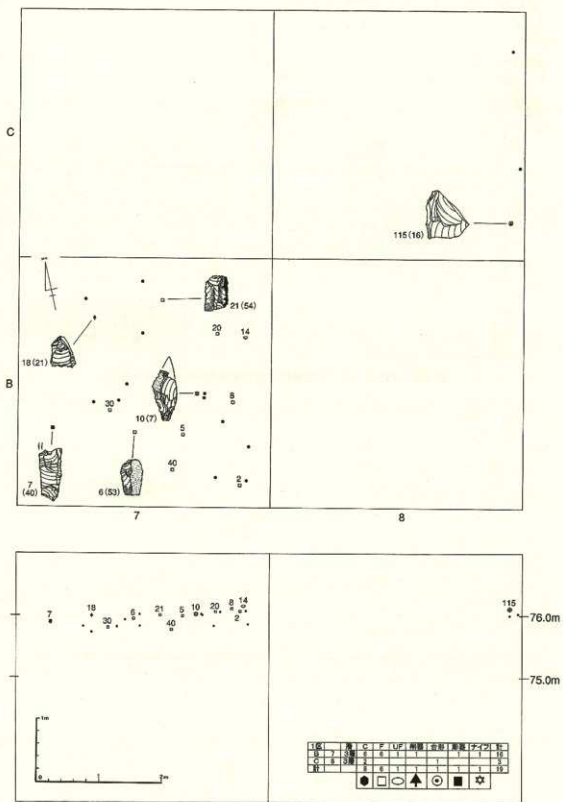
■ 異形石器



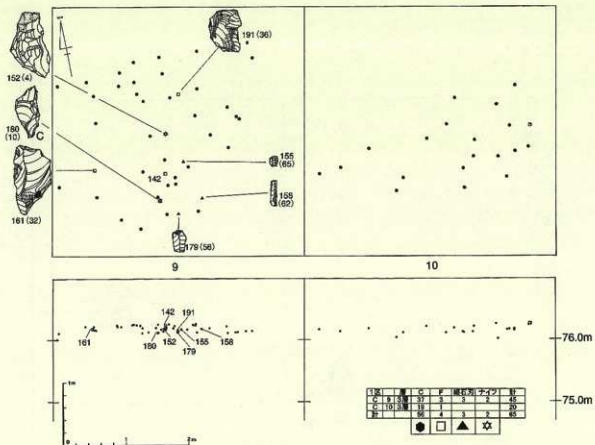
■ 異形石器

(白抜きの数字は出土点数を示す)

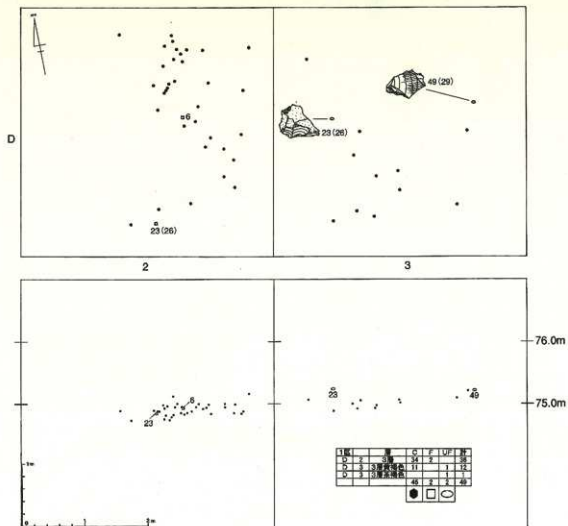
第12表 1区石器器種別分布概念図



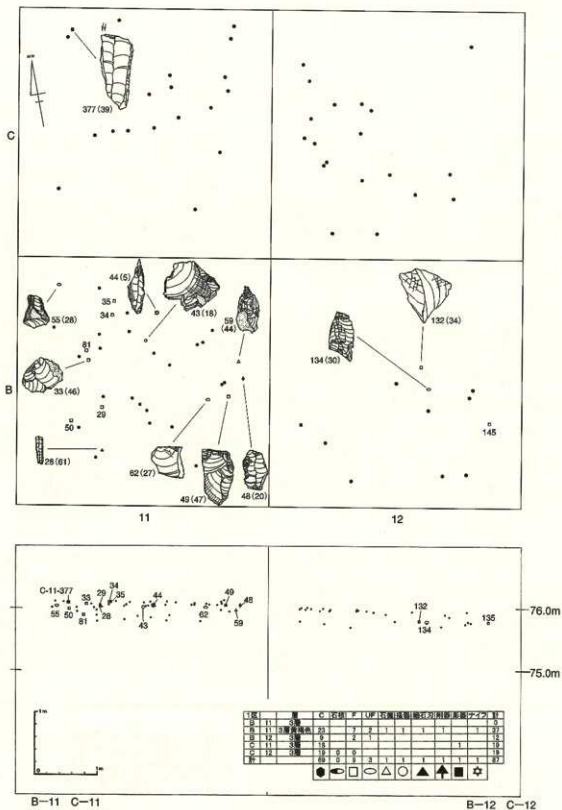
第21図 1区B-7、C-8調査区3層出土遺物分布図(S-1/60)



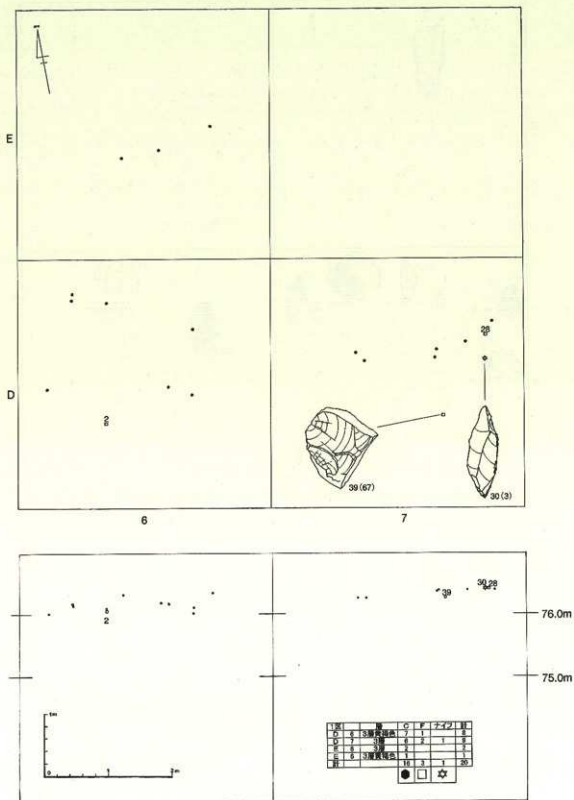
第22図 1区C-9、10調査区3層出土遺物分布図 (S-1/60)



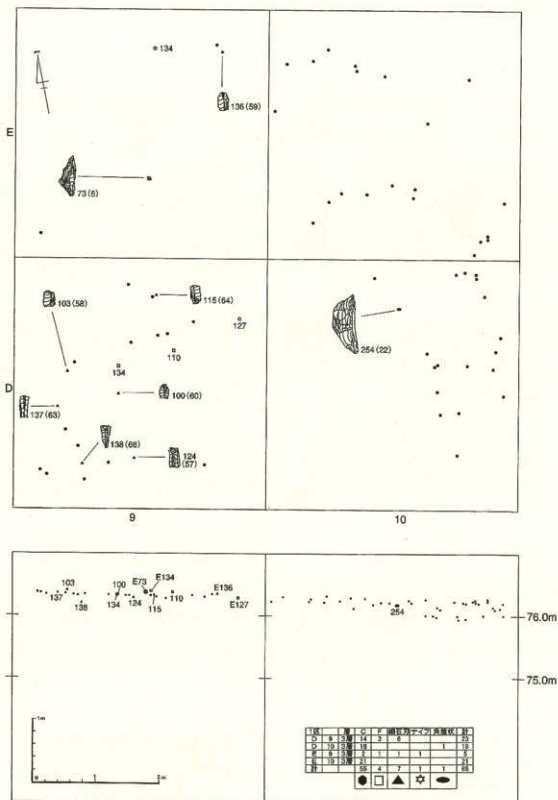
第23図 1区D-2・3調査区3層出土遺物分布図 (S-1/60)



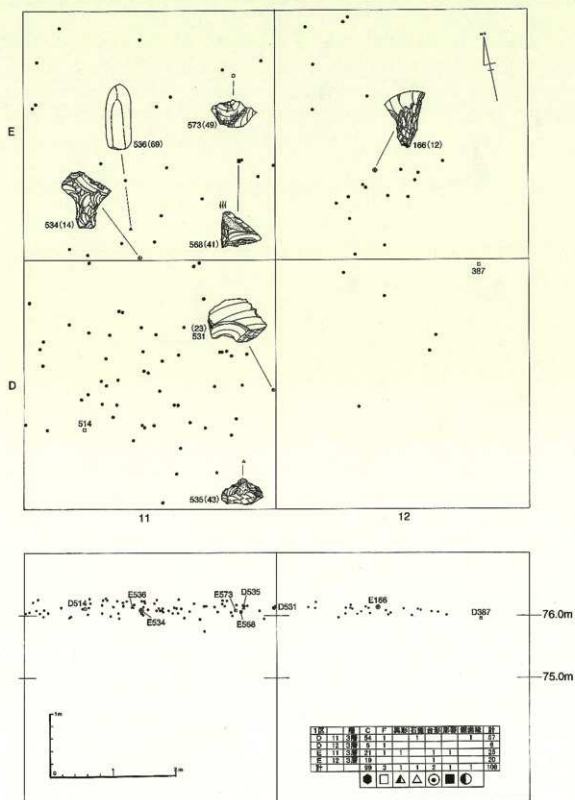
第24图 1区B·C-11·12调查区3层出土物分布图 (S-1/60)



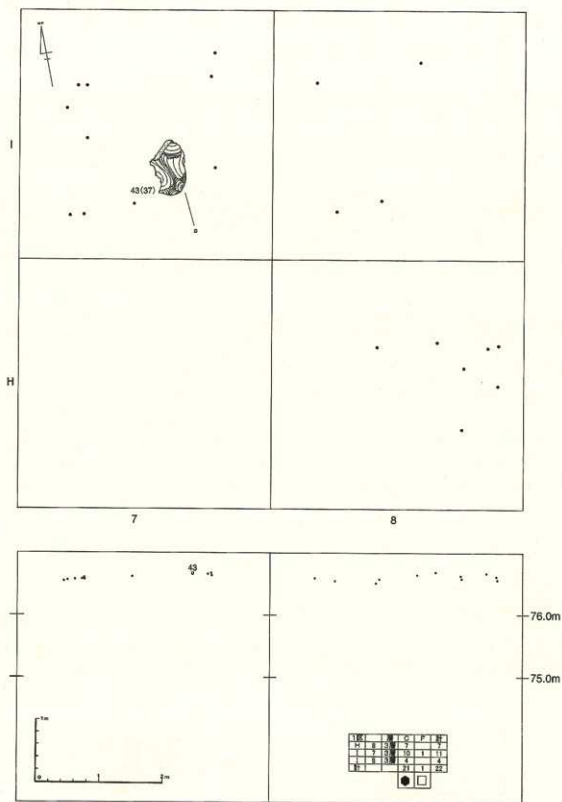
第25图 1区D·E-6·7調査区3層出土遺物分布図(S-1/60)



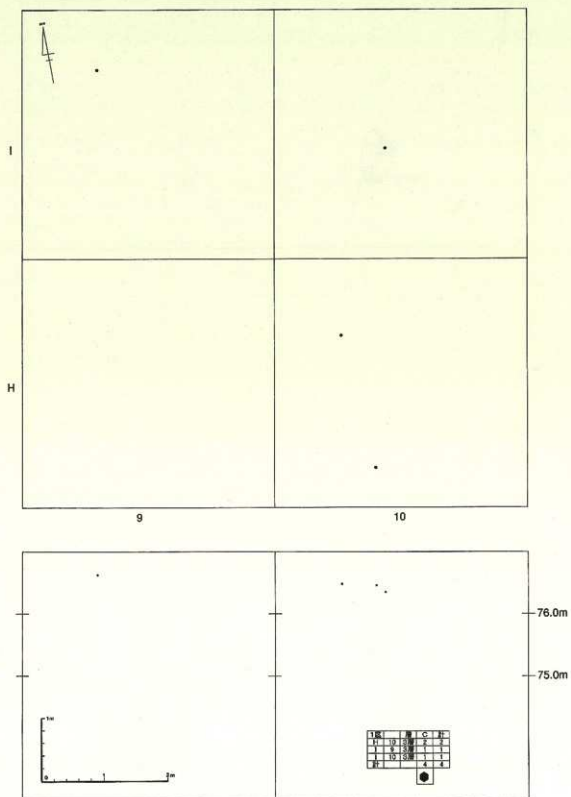
第26图 1区D·E·9·10调查区3层出土文物分布图(S-1/60)



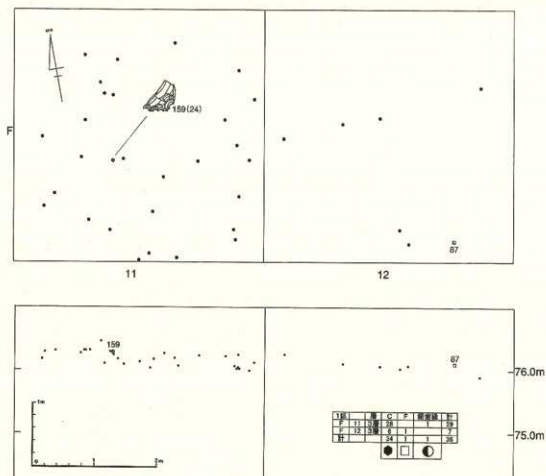
第27图 1区D·E-11·12调查区3层出土遗物分布图(S-1/60)



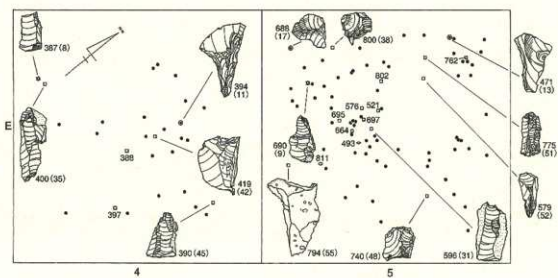
第28圖 1区H・I-7・8調査区3層出土遺物分布図(S-1/60)



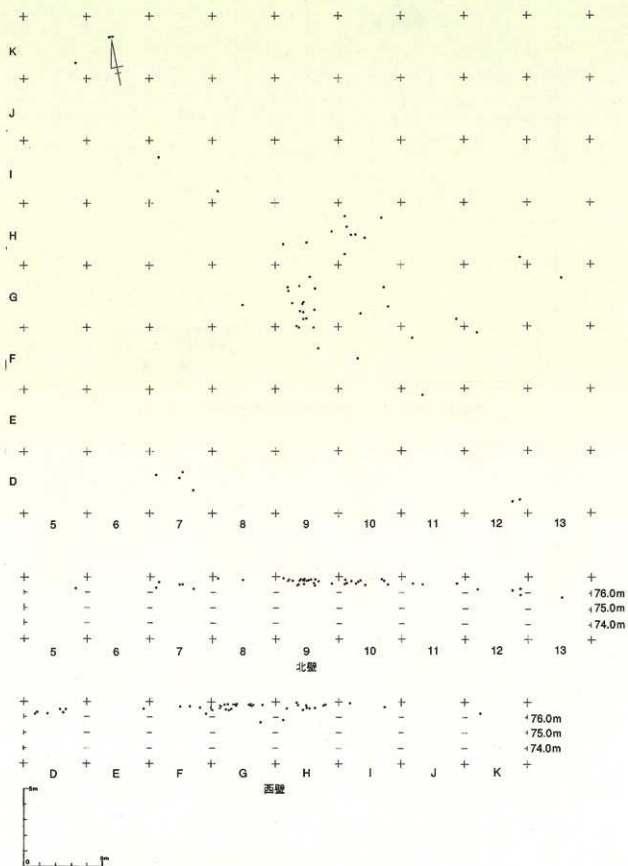
第29图 1区H·I-9·10調査区3層出土遺物分布図(S-1/60)



第30図 1区F-11・12調査区3層出土遺物分布図 (S-1/60)



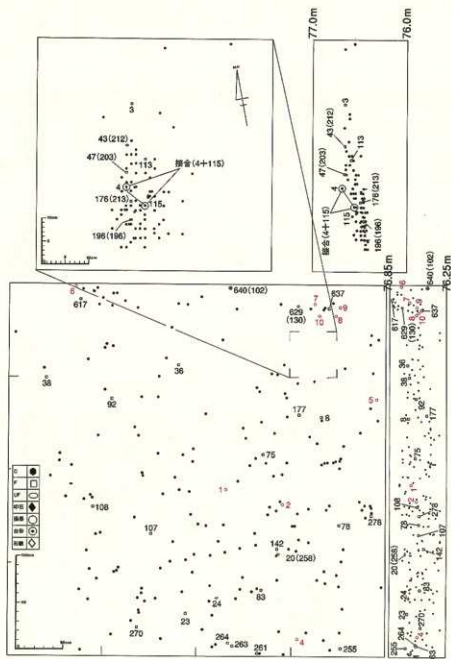
第31図 2区E-4・5調査区3層出土遺物分布図 (S-1/60)



第32图 1区D~K-5~13调查区 無斑晶質安山岩分布图 (S-1/250)

剥片各々3点であり、定型的な石器は認められない。このなかでの接合関係は2点のみであり、それも直接接合ではない。また調査区内および隣接する調査区の遺物とも接合関係はない。このことは石器の製作跡または一括廃棄の場として機能したものであろう。なお2層内において石器集中部周辺からの柱穴などの遺構の確認はなされなかった。

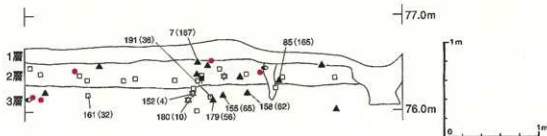
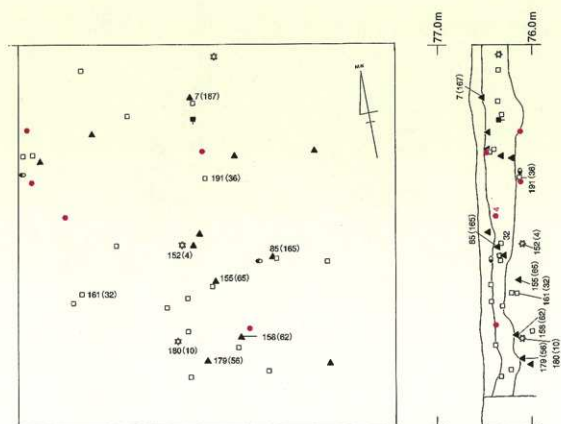
同じような状況は2区においても確認されている。C-7調査区2層中において明確なプランは確認されないものの、径約20cm、深約12cmの範囲に集中して遺物の出土が見られた。120余点出土しているが、分布図を作成できなかった原位置を遊離した遺物もあり、加えると200点は越えるものである。同区からは全体で337点の出土が見られ、出土位置を確認・記録した約37%がこの部分に集中している。組成は剥片4点、削器1点のほかは全て削片であり、石核



第33図 1区E-10調査区2層出土遺物分布図(S-水平1/40、1/8、垂直1/40)

は認められなかった。石材は灰色をした黒曜石が主体であり、わずかに漆黒黒曜石を含む。切片は1mm～1cm大のものまであり、細調整段階のものである。出土の状況から廃棄用の土壌を掘ってすぐ埋め戻したことが推察される。

第10～12表は1区の3層と2層の器種別の遺物出土状況である。3層の總まりはC～F-9～12調査区付近に集中することは前述した。そして、器種ごとの巨視的な分布状況を見ると、各器種において3層出土調査区より、より広範囲に分布していることが判明する。これは本来的に3層中に包含される遺物が、後世の諸活動により攪乱されたことを物語るものであり、その時期は縄文時代であったことが出土遺物から明らかである。

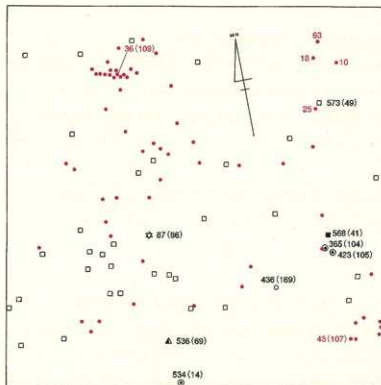


第34図 1区C-9調査区2・3層出土遺物分布図(S-1/40)

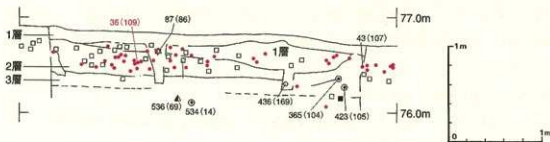
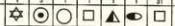
つぎに、第34・35図にC-9、E-11調査区2・3層の削片を除く石器、土器の出土遺物の水平・垂直分布図を掲載している。両調査区ともに土器の垂直分布が3層上位、あるいは3層中まで認められ、縄文時代の耕作などによる攪乱が2層中において活発に行なわれたことを示唆している。またC-9調査区においては3層中まで細石刃の分布が認められ、3層堆積期間の長かったことを示唆している。2層はまさに縄文人の活動の軌跡を表していると言える。

② 1区3層ユニットの配置 (第36図)

第36図は前述の遺物の出土状態を視覚的に分離したユニット図である。本来的には個別資料の検討、接合関係の捕捉を行って実施すべきであろうが、接合関係を示す遺物の検出がなされなかったため、遺物の集簡所と主要な石器の分布の在り方から識別したものである。ユニットは全部で13箇所確認することができた。各ユニットの石器組成は第13表のとおりである。以



1区	層	タイプ	形状	数量	形質	数量	石核	フ	計	土器
6	11	2	1	2	1			1	36	25
6	11	3							1	4
計			1	3	1	1	1	1	37	29



第35図 1区E-11調査区2・3層遺物出土状況図 (S-1/40)

下、説明を簡単に記すと、

ユニット1…B-7調査区を中心に約4mに分布する。ナイフ形石器、彫器を中心に24点で構成される。

ユニット2…B-11・12調査区に展開する。小型のナイフ形石器、石錐、搔器、削器などを主要な石器とし、49点で構成される。細石刃が1点検出されているが、後世の共伴であろう。

ユニット3…C-8・9調査区に展開する。ナイフ形石器、台形石器など48点で構成されている。細石刃3点が検出されているが、ユニット8との関連で南に移動したものと推察される。なお、本ユニット2層からは細石刃が9点検出されているのも、このことを証するものであろう。

ユニット4…C-10調査区に納まる展開を示すが、剥片と削片のみから構成されており、また2層からも台形石器1点が検出されるのみであり、他のユニットとの関連を窺わせている。

ユニット5…C・D-11調査区に跨る展開を見せる。石刃使用の彫器が1点と、削片19点から構成され、2層遺物の台形石器を含めても貧弱な状態である。

ユニット6…C-12調査区に展開するが、削片19点を残す。2層遺物の角錐状石器を含めても4・5同様貧弱であり、これらは何らかの場の機能の相違を示唆しているであろう。

ユニット7…D-7調査区に展開する。ナイフ形石器、剥片、削片9点で構成される。剥片には無斑晶質安山岩製の剥片が含まれており、同素材を使用したユニットが2箇所（第32図）以上存在したことを示している。

ユニット8…D-9調査区に展開する細石刃文化期の所産である。細石刃は2層にも11点検出され、南のユニット3に移動したものや、周辺調査区のものを含めると35点ほどが検出され、当該期の場の機能を示している。ただ、残念ながら細石核はC-F-11列からの検出であり、遊離した状況が想定される。

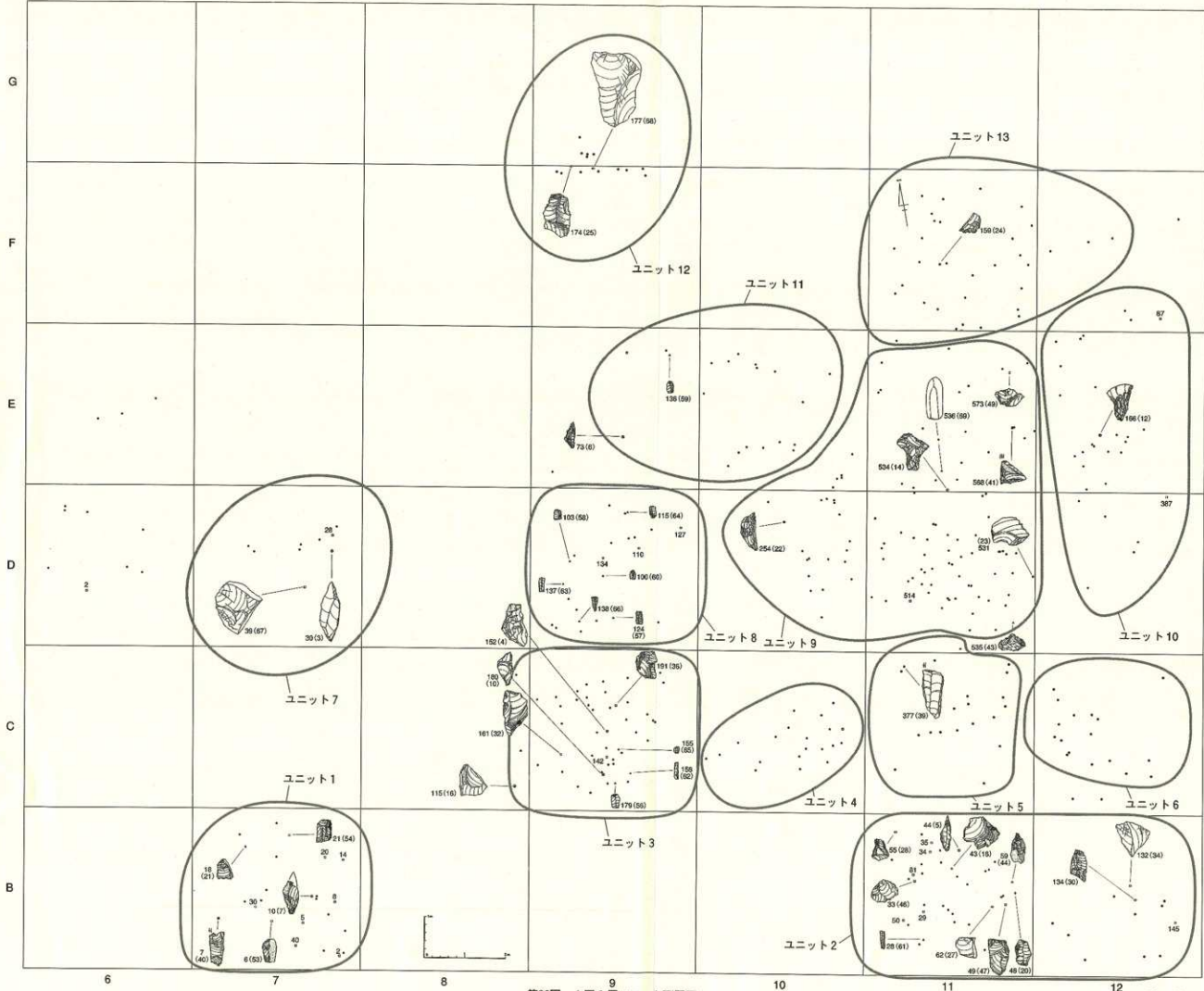
ユニット9…最大のユニットで、D・E-10・11調査区に展開する8m前後のものである。台形石器、彫器、石錐、鋸歯縁石器、異形石器、角錐状石器、削片など101点で構成される一番纏まりを認めるユニットである。なお角錐状石器はユニットの最も西側から出土している。

ユニット10…D-F-12調査区に展開する8m前後のものである。主要な石器は台形石器1点のみで、剥片、削片の26点で構成される。

ユニット11…E-9・10調査区に展開する。小型のナイフ形石器ほか剥片、削片21点で構成される。ナイフ形石器が遺物集中部から西偏しており、後世の人為を想起させる。

ユニット12…F・G-9調査区に展開するが、極めて小範囲である。無斑晶質安山岩製石核、黒曜石剥片、削片など20点で構成される。第32図に無斑晶質安山岩の2・3層平面分布図を示しているが、ユニット7では3層中に含まれ、またユニット9では2層で検出されており、本来はユニット9の組成の成すものであったと考えられる。

ユニット13…E・F-11、F-12調査区に展開する。鋸歯縁石器1点が集中部の中ほどに位置する。削片33点の計34点で構成されている。



第36図 1区3層ユニット配置図